

資料編

1. 第1期地域公共交通網形成計画の検証

第1期計画では、一部の鉄道駅における利用環境改善や生活支援交通の導入、公共交通の利用啓発などを中心に取り組んできました。その一方で、検討に留まったものもあります。

久留米市の強みを活かし、活力を育む地域公共交通体系

誰もが安全・快適で、安心して暮らせる地域公共交通体系

基本方針1 市域内外の連携を支える地域公共交通網を形成します

取り組み施策	実施した主な事業
・主要駅の駅前広場等の整備	犬塚駅前広場整備
・公共交通相互を円滑に乗り継ぎできる拠点の整備	善導寺駅トイレ整備
・幹線バス路線の主要バス停の環境改善	バス停上屋整備
・交通ICカード利用可能エリアの拡大	協議会にて要望
・市街地フリー乗車券等の導入の検討	路線バス1日フリー乗車券(社会実験)
・公共交通を一体的に利用可能な運賃施策の検討	西鉄・よりみちバス共通乗車券

基本方針2 魅力と賑わい溢れる中心拠点づくりを支援する地域公共交通環境を形成します

取り組み施策	実施した主な事業
・中心拠点における公共交通のあり方の調査・研究	検討に留まる
・中心拠点周辺の市街地部における公共交通のあり方調査・研究	外環状道路の路線バス需要調査
・パーク&ライド駐車場の確保	検討に留まる
・バスの運行状況に関する情報提供の充実	バスロケ表示機の整備

基本方針3 地域資源を活かした観光振興を支援する地域公共交通環境を形成します

取り組み施策	実施した主な事業
・JR久大本線への新駅の設置	協議会にて要望
・企画乗車券等の新設	西鉄バス草野線日帰りバスパック
・観光施策との連携による公共交通に関する情報提供の充実	イベントチラシ等への交通情報掲載

基本方針4 多様なニーズに見合った生活交通を充実していきます

取り組み施策	実施した主な事業
・持続可能な地域公共交通網構築のための輸送の見直し	路線バスとよりみちバスの接続
・利用が低迷する路線バス運行エリアにおける移動手段の維持	補助路線周辺住民への時刻表配布
・公共交通空白地域等への生活支援交通の導入	よりみちバス2地域、コミタク17校区
・生活利便施設等から利用しやすい停留所の設置	若宮、草野、北野線等の路線改正

基本方針5 誰にとっても安全な地域公共交通環境を整えていきます

取り組み施策	実施した主な事業
・主要駅等へのユニバーサルデザインの導入	検討に留まる
・低床バス(バリアフリー対応車両)の普及促進	ノンステップバス3台導入
・交通拠点等での分かりやすい情報案内・誘導の実施	バスロケ表示機の整備
・高齢者の公共交通利用に対する支援	検討に留まる

基本方針6 環境負荷が小さい移動手段である公共交通への転換を図ります

取り組み施策	実施した主な事業
・鉄道駅・バス停でのサイクル&ライド駐輪場の確保	市営:鉄道27カ所、バス停3カ所
・モビリティ・マネジメント、ノーマイカーデー等の実施	バス乗り方教室の実施
・公共交通に関する分かりやすい情報提供の実施	公共交通マップの配布

基本方針7 公共交通利用者の維持・拡大を図ります

取り組み施策	実施した主な事業
・地域の公共交通に対する“愛着”の醸成	バス・鉄道フェスタの開催
・主要施設との連携による公共交通利用のきっかけづくり	路線バス1日フリー乗車券(社会実験)

地域公共交通網形成計画の概要

地域公共交通の目標値

地域公共交通に関する基本的な方針

地域公共交通網形成計画の目標・施策・評価指標

計画の進め方について

資料編

第1期計画の目標の達成状況を評価する数値指標の現況値を計測した結果、7つの指標のうち、目標を達成したものはありませんでした。また、目標は未達成ながら策定時よりも改善している指標が5つ、策定時から改善が見られないものが2つでした。

▼第1期計画の数値指標の達成状況

評価指標	第1期 策定時	H27 年度末	H28 年度末	H29 年度末	H30 年度末	R1 年度末 (現況値)	第1期 目標値	達成 状況
人口に対する市内主要鉄道駅の乗降客数	76	74	75	75	76	77	80	△
	回/人・年							
中心拠点内の乗降客数割合	71.1	70.8	71.3	71.3	72.1	72.1	72.6	△
	%							
久留米市の年間観光入込客数	515	518	525	537	591	600	700	△
	万人/年							
公共交通空白地域の面積	90	69	69	69	69	69	45	△
	km ²							
主要駅のバリアフリー化率	33	33	33	33	33	33	58	＝
	%							
地域公共交通利用率	136	133	135	135	136	138	143	△
	回/人・年							
公共交通に対する市民の満足度	3.23	未調査	3.52	3.12	3.24	3.04	3.4	＝

※達成状況の評価 ○:目標を達成
△:目標は未達成ながらも策定時より改善
＝:策定時から改善していない

それぞれの評価指標に対する考察を、以下にまとめました。

▼第1期計画の数値指標に対する考察

評価指標に対する考察
<p>駅前広場の整備や交通結節点の環境改善など、利便性向上に貢献する事業の進捗が停滞したため、主要駅の利用者数は増加せず、目標未達成となりました。しかし、事業を着実に実施した犬塚駅の利用者数は増加しており、事業効果が発現しています。</p>
<p>西鉄久留米駅のバスターミナル高機能化や、JR～西鉄間のバス再編は検討に留まっていますが、中心拠点づくりを支援する事業として、バス停上屋、バスロケ表示機の整備を実施しました。目標未達成ではありますが、中心拠点内の人口増、シティプラザの開業などの影響により、中心拠点内の公共交通利用は増加傾向にあります。</p>
<p>久留米市観光・MICE戦略プランに基づく観光施策の着実な実施によって、目標未達成ではありますが、観光入込客数は増加し指標は改善されています。観光客の公共交通による移動を円滑にするために、観光振興と交通施策との連携を一層進めていくことが求められます。</p>
<p>平成27年度の2地域への「よりみちバス」導入により一定の改善はあったものの、その後の展開が停滞しており目標未達成となりました。一方で、コミュニティタクシー制度の拡充により、対象者は限られるものの、実質の空白地域は解消傾向にあると捉えられます。</p>
<p>目標とした3駅について、交通事業者と共に検討を行っているものの、計画期間内での事業化には至っていません。交通結節機能の強化と合わせて、今後も行政と交通事業者で、継続して検討を進めていくことが求められます。</p>
<p>目標値は人口が29万人まで減少した想定の中で、公共交通利用者数を維持することを目的としていましたが、結果として人口は計画策定時から横ばいであり、公共交通利用者数は微増しているため、目標未達成ではありますが、公共交通利用の維持は達成できていると捉えられます。</p>
<p>公共交通に関する総合的な取り組みを通じた公共交通に対する市民の満足度は、大きく向上せず、目標未達成となりました。しかし、犬塚駅の広場整備やよりみちバスの導入など、事業が着実に進捗した地域や高齢者の評価は改善しています。</p>

▼第1期計画の主な効果

- 駅前広場整備及びよりみちバス乗入れを行った西鉄犬塚駅からの中心拠点へのアクセス性向上
- 公共交通空白地域における移動手段の確保
- 市民はもとより来街者にもわかりやすい情報提供環境
- 高齢者にもやさしい利用環境
- 公共交通に対する興味・関心の向上、満足度の改善

▼第1期計画の主な課題

- 中心拠点、地域生活拠点の駅の交通結節機能の強化
- 補助路線の生産性向上
- 公共交通空白地域のさらなる解消
- 鉄道におけるバリアフリー化の促進
- さらなる公共交通利用の促進
- より一層の観光振興との連携推進
- 事業効果が適切に反映される評価指標の設定

▼第1期計画の検証の総括

- 公共交通の利用促進やバス利用環境の改善、よりみちバス、コミュニティタクシーの導入による移動手段の確保など、取り組みが可能な事業から順次計画を進めてきており、中心拠点へのアクセスの向上や公共交通空白地域の改善などの効果も見られる。
- 一方で、中心拠点及び生活拠点の交通結節点機能の強化といったハード面や、公共交通空白地域の解消などのソフト面での施策展開では、検討に留まっている事業や、現在取り組んでいるものも十分な効果発現まで至っていない状況にある。
- 各種施策を着実に実施し、発現した効果をさらに大きく成長させていく必要がある。

▼第2期計画に策定に向けて

検証結果から、第1期計画の各種施策を継続して実施するとともに、下記のような、近年の公共交通を取り巻く社会情勢の変化も視野に入れ、対応していくことが求められる。

- バス運転手の不足
- 公共交通確保維持のための公費負担額の増加
- MaaS 概念への注目の高まり
- 自動運転等の新たなモビリティサービスの登場
- 高齢ドライバーの交通事故の増加